

さやま
環境市民
ネットワーク

レポート

No.12

2006年10月10日 発行

さやま環境ウォーク2006

入間川を楽しもう

ふるさとの川再発見

についての感想

9月3日(日)晴天のもと、さやま環境市民ネットワーク主催の第2回「さやま環境ウォーク2006」が入間川の河川敷で開催されました。

石田会長の開会の挨拶の後、仲川市長、大野代議士、諸口県議、それぞれの皆様から、入間川に対する思いや、今後も、幅広い内容で豊かな川のための環境作りの努力をしていくとの言葉をいただきました。



おっ 魚がいるよ!



さあ 出発だ

参加者の多くは、入間川の川べりを歩くのは初めてで、「川の水が意外にきれいだ」「植生の中に外来種が多い」「野鳥を多く確認した」

など、いろいろと感想を述べていました。しかし、橋の下に人が住んでいたり、勝手に畑として使っていたり、ゴミが放置されている等、マイナス面もたくさん見られたようです。

コースの途中では、川の歴史や、野鳥、植生などの専門家の説明があり、いずれも好評でした。また伝統漁である地引き網による鮎漁や、鮎の塩焼き、笹井堰そばの団子屋の店、カヌー体験なども喜ばれました。



鮎の塩焼き おいしいな!!

しかし、とれた鮎は放流されたものです。入間川にはいくつもの堰があり、回遊魚は遡上できず、魚道の整備が急がれています。市民が安心して

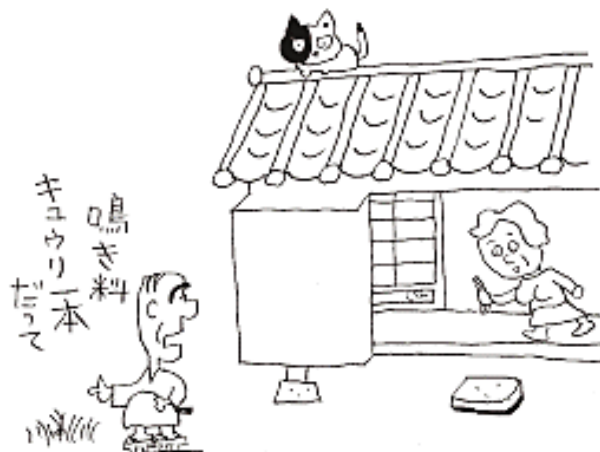
楽しめる自然豊かな親水公園としての川に早くなってほしいです。

今回、多くの課題を感じた「さやま環境ウォーク2006」でした。(川分科会 鈴木英有)

環境くん

石川しげひさ

虫の声



女性庭師たちのまちづくり

6月10日(土)つくばアーバンガーデニング(TUG)の見学会が行われた。参加者は10名。梅雨の晴れ間、つくばエクスプレスで田園風景の中、未来都市へと向かった。TUGは女性庭師が「花と緑のまちづくり」をモットーに、市民を巻き込んだ意欲的な取り組みと活動を行っているNPOである。

「つくばの顔」のセンター地区に到着後、松見公園の一面にホッとさせる風景が私達を迎えてくれた。一際目を引く流線型の花壇はバリアフリーの回遊式ガーデンで、溢れんばかりの花々やハーブの香りが五感を刺激するいやしの庭となっている。'04年に建設大臣賞を受賞したTUGのご自慢である。当日も庭師やボランティアが汗ばむ中をモッコウバラの剪定に余念がない。隣接の芝生の広場と合わせて、市民の憩いの場となっているようだ。午後、事務局長の井口百合香氏からNPO立ち上げの経緯や苦労話などを伺った。主婦たちで何か仕事をと話していた'90年、造園業者から女性起用の新事業の相談を受け、「新しい仕事、まちづくり」のため「女性庭師講座」を提案した。応募者殺到。さらに勉強を



つくばアーバンガーデニング

重ねた庭師たちと「花と緑のまちづくり」を「仕事」としてNPO化した。それはボランティア活動や住民運動の範疇とされがちな分野を

「仕事」とすることで質を変えようと考えたからである。市の荒地に、花卉農家の花を市民の手で植え、センター地区を花いっぱいにする活動は徐々に認められたが、'05年に入札制度が導入され活動は縮小。「制度が恨めしい」とも。花の管理は庭師や有給の高齢者や障害者、ボランティアで行って、人気を得ている。また年間イベントも多様で、市民(農家や大学)の交流やネットワークづくりとともに、「まちづくり」の意識を高めている。とりわけ市民応募の「100本のクリスマスツリー」はつくば市の一大イベントとなっている。(緑の分科会 仲村みどり)



TUGの女性庭師たち

「エコライフDAY 2006」夏のキャンペーンを終えて

「エコライフDAY 2006」の活動は、温暖化防止に向け、市民のライフスタイルの転換を促すことを狙った普及・啓発活動です。参加者総数1万人を目標に、全小中学校、全さや環ネット会員および企業に参加を呼びかけました。その結果、参加者総数16,515名、二酸化炭素削減量計11,382kgという、目標を超える成果が得られました。



エコライフDAY2006

この活動の核と位置づけた小中学校では、生徒の参加率47%、家族を含めて104%と多大な協力を頂きました。参加した生徒からは多くの感想が寄せられ、子ども達の環境への思い、気付きが書かれていました。また、家族全員で励ましながら実行した光景、家族が環境に配慮していることを知った喜び等もありました。これ

らの感想を読み、この活動が温暖化防止活動の普及・啓発に有効であったことを、あらためて感じました。

エコライフDAYは、チェックシートの項目毎に、実行したかどうかをチェックするものですが、生徒、一般ともに実行が少なかった項目は共通しています。

- ①レジ袋はもらわなかった。
 - ②使わないときは、コンセントからプラグを抜いた。
 - ③興境に良い製品やリサイクル品を使った。
- 等です。これらは特に難しいことではなく、意識すれば簡単にできることです。会員の皆様も是非日常的に心掛けて、実行して頂きたいと思えます。

この活動を継続していくためには、いくつかの課題があります。第一に、さや環ネット会員の参加が極めて少なかった。第二に、学校別の参加率に大きな差があった。第三に、さや環ネットとしての取り組みが必ずしも十分ではなかった等があげられます。これらの解決策を検討し、今後の活動に生かしていきたいと思えます。(温暖化対策分科会 児玉 靖)

リサイクルプラザ・プラザ棟検討会の報告

上奥富にある第一環境センターごみ焼却施設の跡地に、不燃ごみ・粗大ごみの処理と、ビン・缶の選別処理を行なう工場棟（平成19年度供用）、リサイクルに関する啓発や教育などを行うプラザ棟（平成20年度供用）の建設が予定されています。プラザ棟の基本コンセプトや具体的な内容を検討するにあたり、所管の市役所資源循環推進課からさやま環境市民ネットワークに参加の要請があり、伊藤、吉村、遠藤、児玉、毛塚の5名が参加しました。

検討会では、①循環型社会の実現を標榜するとともに環境市民を育む拠点 ②子供たちの環境教育の拠点 ③近接する入間川河川敷やサンパーク奥富などとのスムーズな動線の確保 ④眺望や開放感にも配慮した居心地の良さの確保

⑤各フロアの効率のよい機能分担、間仕切りによる可変性や倉庫などの収納スペース及び、機能を限定しない自由工場の設置等による使い勝手の良さの確保 ⑥建物全体の省エネなど環境対策のショールーム化 ⑦市と市民との協働運営の検討、などを要望しました。

これらの要望をふまえ、現在、計画及び設計が進められています。建物の構成は概ね下記のとおりです。

- 1階=玄関ホール、事務室、修理・再生室
- 2階=展示コーナー、再生品コーナー、
談話コーナー
- 3階=ホール、大会議室、自由工房、学習室
(毛塚 宏)



武蔵野の雑木林の恒久保存に関し 狭山市議会から国に対し意見書提出の運び

前号No.11の「市民の方で狭山市の雑木林を「悠久の森」として保全しよう」との記事で、財務大臣、環境大臣および国土交通大臣に、狭山市の緑の喪失の状況、緑の保全の大切さ、および物納地の保全や税体系の見直しの要望などを訴えてきた事をお伝えしました。

そしてこの度、さやまネットは、狭山市議会からも同様の働きかけをして頂くことで、この問題をより強く国に認識してもらえるのではない

かと考えました。

そこで、8月18日市議会議長および副議長に面会し、国に対し雑木林の保全に関する意見書提出のお願いをしました。その結果、9月20日の市議会最終日には、議員提出議案として「雑木林の恒久保存並びに税体系の見直しに関する意見書の提出」が全会一致で採択されました。本件が狭山発で大きなうねりになることを期待して、状況報告とします (小川泰男)



★ 知っていますか？ エントロピーの法則

「環境」というと直ぐに地球温暖化やゴミ問題、あるいは資源の再利用が頭に浮かびますが、以前環境問題で「エントロピーの法則」を教わった記憶があります。「熱力学の第二法則」を「エントロピーの法則」と言い、「物質とエネルギーが一つの方向にのみ、即ち使用可能なものから使用不可能なものへ、あるいは利用可能なものから利用不可能なものへ変化する」。ある物質を変化させると元に戻らず、元に戻すには変化させるために費やした数倍から数十倍のエネルギーが必要。資源は有限であり「地球は宇宙か

らの物質的恩恵を受けることはない」という理論だったと覚えています。

日常生活で、私たちはほんの一部の物質と、再生不可能に近い石油や鉄鉱石、あるいはセメント原料の石灰石等、膨大な資源やエネルギーを消費して生きていることを考えると、経済成長一点張りで大消費大国の日本の未来に空恐ろしさを感じます。豊かな生活を送ることも大切ですが、子孫に地球の美田を残す為にも「豊かさを少々我慢しながら地球資源を使うことの大切さ」を、この「エントロピーの法則」が教えてくれています。(高梨貞夫)



梅期の会間を纏って、本年も「ホンダの真夏の祭典」に参加した。昨平成17年は本場にカンカン照りでの祭典で、「緑のトラストB号地指定」を狙った熱い、厳しい県民投票の呼び掛けの場だった。

それに引きかえ、今年平成18年は雨具が必須の活動だった。今回のさやまネット参加の狙いは次の2つが目的で、先ず、昨年の「トラストB号地県民投票」への御礼と「みんなの志で危うい狭山の緑を悠久の森へ」の寄附のPRだった。

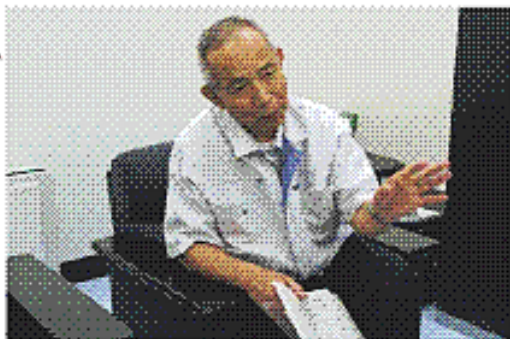
『狭山の緑や自然を残そう!』という大看板に注目する参加者に、昨年の御礼と募金や寄附の依頼のチラシを配布した。「去年も来てましたネ」「結果はどうでしたか?」「頑張って下さい」の感激の言葉や励ましを頂いた価値ある祭典だった。(小川 繁)

「快環創業企業」— (株) ユース

過日、梱包工場に隣接する事務所を訪問した。梱包から出発した事業も、現在は『産業用資機材販売と業務請負』を主力に、『OA、環境機器、アスクール』にも力を入れているとのこと。

「先日、川越工場の蛍光灯一個一個に紐をつけたんですよ。企業が行う省エネは、実に大きいのです」と熱っぽく語る石田社長は、冒頭に挙げた『快い環境を創り出す企業』に真剣に取り組んでいる実践型経営者です。

「地球環境の危機をどうやって理解してもらえばよいのか」と自問自答しつつ、まずは社員教育からはじめ、環境宣言も「地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを従業員全員が確認し合うこと。人と社会に優しい企業を目指して行動すること」と決めて、地域のベゴニ



省エネを語る石田社長

ア植えや、圃地清掃活動にも会社を挙げて参加してられました。また、こうした活動が社員教育となり、会社の信用にもなると考えられたのです。

このような活動を通して、地域の環境問題に関心のある方々との繋がりを持つ事が大切と考え、『さやま環境市民ネットワーク』に関わることになったそうです。

さて、社名「ユース」の由来は、サミュエル・ウルマンの「青春：青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の有り様を言う」から採られました。石田社長は、この「青春」の持統を信条として生きたいと宣言されています。

そしていつも前向きに物事を考え、時間を見つけてはお客様のためになる情報提供と商品のPRのため、企業まわりをされているとのことでした。社長は、ただ今「青春真っ盛り!」

(編集委員 華野 新)

イベント情報

第19回

上赤坂の森クリーン活動

今年も上赤坂の森クリーン作戦を行います。皆様のご協力をお願い致します。

- 日時＝11月11日(土) 9:00～13:00 (小雨決行)
- 集合場所＝赤坂の森運動公園
- なるべく徒歩又は自転車。車の方は乗り合わせて。
- 作業のしやすい服装で、軍手は各自持参。
- 問い合わせ＝狹山市生活環境課 Tel.04-2953-1111 内線3681・3682

リサイクルマーケット・さやま

- 日時＝11月18日(土) 9:00～13:00 (雨天決行)
- 場所＝狹山市上奥富運動公園芝生広場
- 主催＝リサイクルマーケット・さやま実行委員会
- 問い合わせ＝資源循環推進課内
リサイクルマーケット・さやま実行委員会事務局
Tel.04-2953-1111 内線3630・3631
- ★さやま環境市民ネットワークが、環境問題についてPRします。



5月の総会以降「狹山市みどりの基金」に各種団体、個人、事業所から寄せられた寄付・募金の合計は、9月25日現在¥1,251,305 (内¥41,347はクローバーマークなし)です。どうもありがとうございます。今後も引き続き、基金へのご寄付ご協力をお願いします。

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。皆さまのご入会をお待ちしております。

会員募集

年会費：市民 1,000円 / 市民団体 3,000円 / 事業者 一口 5,000円
 会員数一平成18年8月15日現在(総数210会員)一個人 177名 / 団体 24団体 / 事業者 9事業者
さやま環境市民ネットワーク事務局 (狹山市環境部環境政策課内)
 Tel.04-2953-1111 内線=3671・3672 Fax.04-2954-6262
 E-mail=kankyo@city.sayama.saitama.jp
 ホームページ= <http://kankyosimin-net.sakura.ne.jp/mysite25/>

さやま環境市民ネットワークは「チーム・マイナス6%」に参加しています。



みんなで止めよう温暖化
 チーム・マイナス6%